

1. はじめに

従来の（資材所要量計画）に代表される大量生産を前提とした生産管理システムは、製造負荷の変動を無視し、固定リードタイムでの資材調達や製品個別の製番管理ができないなど、日本で求められている多種・多様・少量の製品を短期間で生産する形態に対応しにくい。

この要求に応える革新的な生産システムを作るため、学界とエクサを含む産業界有志が 年に コンソーシアム（現 法人技術データ管理支援協会）を結成し研究を行ってきた。そこから生まれた概念に基づくシステムの基盤として、エクサが開発実用化したのが部品表管理ソリューション である。

2. SPBOM の目指すところ

メーカーはお客様から幅広い要求や注文後の変更迅速・柔軟に対応し確実に製品を納入することを要請されている。これに応じるには受注，生産，調達，納入の「ものづくり

活動」全体にわたる業務プロセスの改革とそれを支える生産システムの柔軟かつ迅速な対応が必須である。

は日本の製造業の強みであるものづくりの知識を「ものづくり技術データ（部品表）」に整理し管理することで多種・多様な製品を柔軟に取り扱い，上記生産システム



